

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
10月12日
第53号



イヌサフラン (ユリ科)

第一圃場で咲いているのが見られます。属名をとって「コルチカム」ともいい、欧州・北アメリカ原産で明治期に渡来しました。根茎、種子からアルカロイド「コルヒチン」を採ります。コルヒチンは痛風発作の予防や、家族性地中海熱に対する治療薬として使われます。また染色体を倍加させる作用から植物の品種改良に用います。花はサフランに似ていますが、サフランはアヤメ科の植物です。その偽物ということで、「イヌサフラン」と名付けられました。花が終わったあとは、ギョウジャニンニクとよく似た葉が出ます。イヌサフランの葉にもコルヒチンが含まれており、誤食による中毒事故が起こったことがあります。

ツルドクダミ (タデ科)

第一圃場の仕立て棚によじ登り、多数の白い小花を付けています。葉がドクダミと似た形をしていて、つる性であることからこの名がつけました。江戸時代、享保年間に薬草として導入された、中国原産のつる性多年草です。根を生薬名、何首烏（カシュウ）といい、日本では強壯薬、緩下薬、中医学では養血、滋陰を目的に使用します。名前の由来は、その昔「何」さんがこれを服用して白髪だらけの頭（首）がカラス（烏）のように黒くなったことから。ただ、副作用として肝障害が報告されていますので、医師、薬剤師の指導の下で使用するのがよいでしょう。

今、こんな草木が楽しめますよ！！